

東灘区計画にかかる提言（案）に対する
東灘区選出市議員からの意見等

平成22年3月15日（月）東灘区役所にて開催の「東灘区選出市議員団会議」での議員からの意見等

- 東灘区がどういうまちなのか伝わってこない。ふるさと都市のイメージが湧いてこない。いろいろ区民から出てきた意見だと思うが、きれいにまとまってしまっている。
- もっと、スイーツや酒を宣伝しなければならない。梅の花をどうするのかとか、具体性が出てこなければ区民は共感しない。
- いかに発信するかを考えなければ区民がついてこない。発信の仕方をもっと工夫する必要がある。
- ウォーターフロントについて、2015年を目指してどうして行くのか、例えば、六甲アイランドAOIA跡地をどうしていくのかが見えない。「海辺の場所を再発見しましょう」といった具体性のないものはやめてもらいたい。
- 区単独で書けないことがあることも分かったうえで話をしている。地域主権だからこそ具体的なことに踏み込んで調整して出さないと、区民に具体的に発信できない。せっかくの区計画であるにもかかわらず、絵に描いたもちになりかねない。阪神御影のバリアフリー化など普段から思っていたことが形になってきている。現実的にどうなるかは別として、区としての夢を出して欲しい。
- 基本的な内容は押さえているのだから、行政としてうまくリードしてもらいたい。取り組みを羅列してしまうと、強弱がつかない。メリハリをつけてもらいたい。例えば、1年目に何をして、次年度はこうするというようにして、梅林に囲まれたまちを目指すというような広報戦略をもってもらいたい。
- 区役所のすることが何も書かれていない。夢が書かれていない。できるできないということに文句を言う人はいない。例えば、六甲アイランドを今後どのように整備する予定であるかは記載すべきである。東灘体育館や御影公会堂も現状のままでは良くない。
- 21万人近い人が暮らす東灘区で一番大事なことは、生活の場所、自分の家である。東灘区のイメージは「古くからの良好な住宅地」で、区民は「田園住宅都市」を望んでいる。自分の家の近所の道や公園がどのように整備されるかや、建築規制の問題など、そういうものが抜けている。
- 広い公園や大きな木のあるまちなどといった子どもたちの意見が一番良かった。東灘区にみんなが集まれる大きな木を植えたら良いと思う。鳴尾御影線でも芦屋市に入ると街路樹が多くなる。
- 城崎の西村町長いわく九州の黒川温泉では子どもたちが温泉客にあいさつすることが一番のおみやげになっている。
- あいさつや緑が大事である。

- 本日の提言（案）は、日本のどこの都市にでも通用するもので、人が住んでいることが中心となっているまちでは、だいたいこのような計画になるだろう。
- 何をしたいのか、東灘区のカラーがない。灘区の計画として出しても違いがわからない。特色が見えない。区民から寄せられた意見や課題について、これからどうしていくかの解決案ぐらいにはしか見えない。
- 出てきた問題に対処するだけが区役所の役割ではない。区長として、何か斬新なアイデアや目標を持っているのか聞かせて欲しい。
- 区は予算など権限が限られていることはよく理解できる。
- 全市計画の東灘区に関連する項目を区計画に落とし込まないと、区民にはわからない。バリアフリーはどこが遅れ、どこが進んでいるのかなど、区民には見えてこない。
- 一番問題になっているのは認知症高齢者である。特に市営住宅や県営住宅での徘徊など、大変な問題となっている。東灘区だけの問題ではないが、住宅と保健福祉が縦割りで解決できていない。
- この提言（案）は、東灘の勉強になる。アンケート内容は知らないが、夢を描いて、こういった東灘にしていきたいと思いますと書いてあると思っている。
- 困っている人がいるから、こういう風に変えますと言う形が基本的にわかりやすいと個人的には思っている。高齢者問題にしても、「高齢者がこのように困っている。それをどのように変えてほしい。」といったようなまとめ方もあるが、そういった生の声が出てきているように見えない。
- 「未来の大人をまちが育てる」の「仕事と子育ての両立を応援する」の取り組み目標で、例えば、六甲アイランドでワークライフバランスの取り組みがあつて、「私たちはこういった取り組みでうまくいっています」的なことがあれば、みんなピンとくる。
- これまでの話を聞いて、東灘が一番良い市会議員が集まっており、計画をつくらせたら一番良いものが出来てくると思う。
- 東灘区がどんなまちであるかについての議論がなされていない。区役所は東灘区の良さを掴みきれていないのではないのか。現状の分析もできていないのではないのか。
- 市議には予算も権限もないが、議員と一緒に東灘をどんなまちにしたら区民のために一番良いか、相談受けた区長は誰もいない。
- 各団体の意見を羅列して冊子にただけの印象がぬぐえない。それをやったからと言って出来ると思っている議員はほとんどいない。
- 多くの方が暮らす東灘なのだから、生活者のためにどうすればいいのかという理論の組立がまったくなされておらず、これは他区でも通用するサンプル集である。具体的には、2ページの「或いは歴史的な史跡や灘の酒文化など・・・」も30年も前から書き続けられているが、それも、変わっていないかというと変わっている。明らかに、立派な食の神戸が誇るべきスイーツができています。そんな事なども全然掴んでいない。
- 東灘の将来について考える機会があれば、みんな参加すると思う。皆さん、素晴らしい経験と実績をお持ちだから、これを議員団で提言せよと言うことだったら出来る。
- 現中期計画の時に議員から指摘があつて、検討メンバーをどうするのかと何回も言っている。

- メリハリに欠ける。「ふるさと都市」があいまいな概念でイメージがわいてこない。
- これだけ歴史があって、ふるさとを代表するために、梅林を作り直そうと言ったような具体策があればわかりやすいのだが。網羅的になっている。いろんな意見が出てくるので理解は出来るのだが。もう少し、「ふるさと都市」としてどうしていこうとか考えが欲しい。
- 地域担当者が地域の意見を聞いているのではないのか。
- 鎖瀾閣の件がうまくいかず、岡本公園の拡張工事に入るが、公園をどうしようという意見が具体的に出てこない。たとえば、本山交通公園を作るときに、この提言がどのように生かされているか出てこない。区の計画が、本庁の事業に生かされていない。
- 地元の意見がすべてではない。鎖瀾閣の件でも、ポリシー無く公園の近隣の意見を聞くのが正しいのか。税金を使う立場としてこれが正義なのか。なぜ、区役所はリードしていきなり、こういう指針があるからこういう事を進めていきますというポリシーが出てこないのか。区役所は、区の特徴を発見し、それを伸ばしていく責任がある。
- デジタルの時代だから、そこを「クリック」したら課題が出てきて、区の計画で「出来る」「出来ない」が詳細にわからなければ、作る意味がない。計画で「利用しやすい公園にしていきましょう」と記載するなら、そこをクリックすれば、課題及び解決方法が出てくる、そのようなイメージである。
- この提言（案）は総花的になっている。キーワードはそんなに無いと思う。資料のあり方として、独善的な考え方があっても良いのではないのか。食品工場は住民には関係ない。無視すれば良い。ポイントを絞って書いて欲しい。その方がインパクトがある。暮らす人、暮らす場所、家、建物を入れて欲しい。神戸の行政はだめ。住宅地をどう守っていくのか。
- 区民一人ひとりができることとあるが区民読本みたいなものを作るのか。
- 老々介護など家族が抱えている問題を相談するところが必要である。認知症家族が持っている問題など、解決するには実生活を良くしなければと言う観点が必要だがどう考えているのか。
- もっと区役所が地位や立場を確立した、風格を作っていただきたい。皆さんの意見を聞いたら、「私たちはプロなので任せてください」と言ったような体制を使って欲しい。意見を全て採り入れるのではなくて、体制を作って、リーダーシップやプライドを持ってやって欲しい。
- 区役所も頑張って予算を本庁から取ってくるといった熱意が欲しい。それを区民は応援してくれると思う。
- 区計画について、区選出議員団で精査する機会を設けてもらいたい。
- 市長もよく言われているPDCAサイクルを進めていくことは大事である。
- 区選出議員団が出した意見は、区民に見え、伝わるよう、可視化し、公開してもらいたい。提言（案）には、ウォーターフロントについて何も記載がないのと同じだ。我々議員は具体的な施策を求められることが多く、海辺の再発見と答えるわけにはいかない。